

「認知症世界の歩き方」：箕 祐介（かけい ゆうすけ） 言葉や記号と言ったものが存在せず注文方法が常識とは異なる名店【創作ダイニングやばみ亭】

－認知症のある人の頭の中をのぞいてみたら？－

《この世界には、私たちが当たり前に使っている言葉や記号といったものが全く存在せず、注文方法が常識とはまったく異なる名店があります。》

ここは、知る人ぞ知るレストラン。この店では、料理の名前を表す言葉が存在しないため、みんな「あれ！」「これ！」といって注文します。そして出てくる料理は、和食とも中華ともフレンチとも言いがたい、なんとも表現できないもの。

また、味を表す言葉は「やばみ！」の一言。「やばみ」以外の言葉が頭にまったく思い浮かばないのです。このような状況が、日常でも起きてしまうとしたら？

◆ 生活から言葉や記号が消えるってこんなに不便だったのか

- ① 『10年以上使ってきた炊飯器が壊れてしまって、買い換えました。新しい炊飯器をセットしようとした時、どのボタンを押せばいいのか分からなくなってしまったのです。前の炊飯器のボタンの位置が違っていたこと。そして、どうも「炊飯＝ご飯を炊くこと」と、うまく頭の中で結びつかない』
- ② 『スーパーでマヨネーズを探すとき、困ってしまいました。店内の表示に調味料とあるのですが、マヨネーズが調味料の1つであることがピンと来ず、その棚にあるとはどうしても思えなかった。』

◆ 「調味料」と書かれた棚からマヨネーズを見つけられない理由

- ① 私たちの生活の中では、「貴重品」鍵・通帳・印鑑、「下着」はパンツ・肌着・ブラジャー、「調味料」は、砂糖・塩・胡椒・マヨネーズと分類は無数に広がっていきます。
⇒ 認知機能障害により、その分類を意味する言葉が持つイメージや概念が徐々に不確かなものになってくることがあるのです。
⇒ 「調味料＝味を調えるもの」は想起できても、それが「調味料＝マヨネーズ」だとは想起できず、調味料にマヨネーズが含まれるとは思えないのです。

◆ 思いを言葉にできない（使い慣れた日常単語が言葉にできない）

- ① 『友人と話していたとき、「最近、あそこに行ったんだけど」「学生時代によく食べたあれ注文したいんだけど」と口から出るのがなんだか「あれ」「これ」ばかりで、具体的な言葉がスムーズにでてこない』
- ② 『友人の仕事の話を聞いていても、話が難しいからなのか、なかなか理解できません。必死に理解しようと、あれがこうだから、これがそうになって……と、頭の中言葉を整理しますが、一向に話の内容がよくわからない。また、私も話したいことたくさんあったのですが、なんだかうまく文章にすることができず……』

◆ 思いを言葉にできない理由（記憶の問題）

- ① 取り込んだ知識蓄え必要なタイミングで取り出し（想起）できない⇒ 記憶に障害があるため、自分が話したい内容を想起できない。
・単語のトラブル：リンゴを食べたいと思っても「リンゴ」という言葉が出てこない
・文章化が困難になる：複数の言葉を「想起」し、適切な順序に並び替えるというのは極めて高度な認知機能であり、ちょっとした認知機能のトラブルによって難しくなってしまう。

*「記憶のプロセス：記銘⇒保持⇒想起」については、連載その1の2023年1月を参照願います。

★ 「心身機能障害と」その障害が原因と考えられる生活の困りごと

1. 抽象的言語・概念・記号を表す意味を想起できない

- ① アナログ時計が読めない ⇒ 「長針が分」「単身が時間」を表すということの理解が困難
- ② 「下着」とラベルを付けた収納からパンツを出せない ⇒ 分類の理解が困難なため、全ての引出しを開けて探してしまう

2. 固有名詞からその内容やイメージを想起できない

- ① 地名と過去の記憶が紐かない ⇒ 知っている地名を聞いても、それが何処にあり、どんな場所か、そこで何をしたかということを思い出せない。実際に行っても初めて行った場所に感じる

3. 使い慣れた日常単語・漢字・記号を想起できない

- ① 言葉が出づらく会話が滞る ⇒ 「バス」「車」「レタス」など日常単語が思い出せず、言葉に詰まる。
「あの、毎日乗るあれ」などイメージできているが、単語が思い出せない
- ② 使い慣れた・見慣れた漢字が書けない ⇒ 漢字を思い出せず、目の前に見本を置いて見ながら書いても、なんだか図形をかいているよう。

次回は連載その5 「人の顔は千変万化するため、人を顔では識別しない村がある【顔無し族の村】」